



ガラス玉を作る

まほろんでは、平成 14 年度の夏休みにガラス玉づくりの実技講座を行いました。そこで、募集人数を大幅に上回る応募者があり、参加者のみなさんにも大変好評でしたので、体験活動室のメニューに 2 回程、ガラス玉づくりを加えました。

古代のガラス玉は、土の鑄型に溶かしたガラスを流し込んで作られているものが多いと思われますが、まほろんでは、ガスバーナーと色の付いたガラス棒を使ってガラス玉を作りました。

まず、ガラスと鉄の心棒が付かないように心棒となる鉄の棒に離形剤を塗って乾燥させます。さらに、ガスバーナーでガラス棒をある一定の時間加熱すると、ガラスが真っ赤になって水あめ状に溶けてきます。

そこで、溶け出した水あめ状のガラスを心棒にゆっくりと巻きつけます。ここが、ガラス玉づくりの最大のヤマ場です。溶け方が足りないとうまく心棒に巻きついてくれませんし、溶けすぎると滴となって下に落ちてしまいます。

うまくガラスが巻きついたら、バーナーの上で回しながら形を整え、さましながら灰などの冷却材に入れてゆっくり冷ましていきます。さらに、完全に冷めたところを水につけて心棒から抜き取って完成です。

平成 15 年度も何回か体験活動室でのガラス玉づくり体験を予定しています（近いところで 6/10～6/22、材料費 100 円必要）。是非、まほろんにいらしてチャレンジしてみませんか。

土偶・土面作り

1月18日（土）に開いたまほろん実技講座では、「土偶」と「土面」を作りました。土偶は、展示室では、スター選手的な存在ですが、何の姿なのか、何の目的で作られたのか、はっきりはわかりません。土面はめったに出てこない珍しいものです。お祭の時にかぶったのではないかと考えられていますが、くわしいことは土偶同様わかりません。同じ時代の土偶の顔に似ているものが多いようです。

当日は、まほろんに保管されている土偶をまず見てもらい、それから作り始めました。本物そっくりに作る人もいれば、しっぽのついたユニークな土偶を作った人もいました。人形やお面は作った人に似ると聞いたことがあります。できあがった様々な土偶や土面に、参加してくれたみなさんの、豊かな個性を感じました。

竹笛をつくりました

平成11年、福島県玉川村の江平（えだいら）遺跡から指で押さえる穴が5つか6つと考えられる竹製の横笛が出土しました。

今回は、みなさんに親しみやすい西洋音階が出るよ

うに、7つ穴の笛を作りました。ネズミ歯錐で穴を開け、小刀で穴を整えればとりあえずできあがりです。しかし、ひとつ問題が発生しました。予想されていたことですが、音を出せない子がいたのです。横笛は、学校で習うリコーダーのように息を吹き込めば音が出るというものではありません。穴の縁に向かって横から息をぶつけるように吹きます。最近市販されている道具は、マニュアルさえ読めばすぐに使いこなせるもの、お手軽なものが多いので、たまには使うのに慣れや練習が必要なもの、一見不便なものもいいのかと思っています。



<土偶をつくる>

シリーズ復元展示

鋳型からみた鉄製品の復元 その1

「鋳型」・「鋳物」と聞いて、みなさんはなにを想像しますか？鋳物の製品といえば、お寺にある梵鐘ぼんしょうや茶室で使用する茶釜、あるいは銅像をはじめとする各種の美術作品が、真っ先に思い浮かぶと思います。

今から約1,200～1,300年前（平安時代8～9世紀頃）、福島県浜通り地方北部の相馬地域は、砂鉄を原料とする鉄づくりを盛んに行っていたところでした。この中には、鋳物の工場もありました。今回からは、この平安時代の鋳物工場から確認された鋳型をもとにして、古代の鋳物製品を現代によみがえらせたプロジェクトを紹介することにします。

確認された鋳型は、約20,000点ほどです。これらは粘土で作られ、乾燥後に鉄を流し込み、製品が作られました。製品は、脚しゅうきゃく（獣脚と呼びます）が付いた容器・半鐘はんしょう（火の見櫓などにみられる小型の釣り鐘）・風鐸ふうたく（塔などの軒の四隅に吊り下げる大きな風鈴）・三鈷杵さんしよ（密教で使用する先端が三又に分かれた法具）などです。



型に鋳物を流している

このうち、今回は獣脚付き容器と風鐸の復

元を試みました。

復元では、最初に、獣脚鋳型にスズ箔を貼り付け、そこにシリコンを流し込む作業から始めました。（写真左下）

何度も鋳型を観察し、図面上



鋳箔を貼った鋳型（左）とシリコン模型（右）

での復元を試みましたが、ポジとネガ、凸と凹の状態が、どうしてもうまく復元できなかったため、直接型をとることにしたのです。

鋳型にシリコンを流した結果、できあがったシリコン模型には驚嘆しました。そこには、鋳型からでは伺い知れなかった重厚で荘厳な獅子の顔が見られました（写真上）。平安時代の工人たちが見たものを、1,200年の時を越えて、初めて目にした瞬間でした。

これを製品とした獣脚付き容器は、どこに送られ、なにに使用されたのでしょうか？問題の興味はつきません。

この睨んだ怖い顔を付けた容器については、次回、お話をします。

研修課より

まほろん研修今年の予定

昨年度のまほろん研修は、次の研修メニューを新たに加え実施しました。

発掘調査技術に関する研修では、遺構調査研修(掘立柱建物跡調査研修)を1課目増やしました。これから史跡整備を計画している自治体のためには、「史跡整備のための研修」を設け、現在史跡指定を目指して調査を進めている白河市下総塚古墳で調査実習を行いました。

考古学の研究法に関する研修は、「時代別研修」がありましたが、官衙遺跡研究の第一人者山中敏史先生を招き「官衙遺跡研究研修」を行いました。このほか「考古学講座」を入門・専門それぞれ2回ずつ開講しました。

学校や公民館などで行う体験学習を支援するため、その指導者を対象に「体験学習研修」を設けました。学校の夏休みに合わせて開講し、多くの先生方が受講しました。

「無形の文化財研修」は、無形の文化財の調査・記録・整理の方法について研修します。昨年はデジタルビデオやDVD変換システムを使って、無形の文化財の映像記録と、その整理方法について実習しました。

今年度は、発掘調査技術の充実を図る目的で、定期



<教員研修のようす>

の研修に「遺構調査技術コース」を加えました。今回は竪穴住居跡の高度な調査方法を、経験豊富なベテラン調査員が伝授します。

昨年好評だった「体験学習研修」は、ネーミングを「体験学習支援コース」と改め、年3回開講することにしました。今年も「火おこし」と「布編み」の道具の作り方とその使用方法を実習します。

以上の定期研修のほか、「臨時館内研修」や「職員派遣研修」など、常時申し込みを受け付けている研修も、昨年と変わらず行っています。遺跡の調査や、遺物の整理などでお困りの担当職員の方おりましたならば、ご遠慮なく当館研修課までご相談下さい。また、ご意見ご要望もお寄せ下さいますよう、よろしくお願いたします。

総務管理課より

平成14年度入館者30,000人突破

開館2年目となる平成14年度も多数のご利用をいただき、おかげさまで入館者30,000人(年度累計)を突破しました。団体利用も、小中学校・公民館関係を中心に13年度の264団体から14年度は371団体と大きくのびました。

平成14年度入館者集計

年 月	入館者(人)	累 計(人)
平成14年 4月	2,856	2,856
5月	3,967	6,823
6月	3,773	10,596
7月	3,455	14,051
8月	5,045	19,096
9月	3,729	22,825
10月	3,661	26,486
11月	2,867	29,353
12月	1,630	30,983
平成15年 1月	702	31,685
2月	1,050	32,735
3月	1,712	34,447
合 計		34,447人

収蔵資料、貸出し・閲覧の状況

まほろんの収蔵資料は、開館当初より約2,800箱増



<団体による見学(中学校)>

加しました。遺物の貸出しも、初年度は少なかったものの14年度は9件102点に増加しました。また、写真の貸出し、資料の閲覧件数も増えてきました。

- ・収蔵資料数 39,867箱
 - 内訳 遺物 36,255箱
 - 写真 2,331箱
 - 図面 783箱
 - 地図・カード 498箱
- ・資料貸出し(遺物) 9件(1件)
- ・資料貸出し(写真) 43件(16件)
- ・資料閲覧 23件(19件)

※()は13年度

今年度の行事予定表

1 実技講座(毎月第3土曜日を中心に実施)

期 日	体 験 メ ニ ュ ー	体 験 内 容	募集締切	募集人数	対 象	材料費
4月19日(土)	縄文土器づくり1	小型の縄文土器をつくります。(形づくり)	4月4日	20名		200円
20日(日)	縄文土器づくり2	小型の縄文土器をつくります。(文様づけ)	—	—		—
5月24日(土)	縄文土器の野焼き	4月につくった土器の野焼きをします。	—	—	すべて 小学生以上	—
6月21日(土)	古代の琴づくり	古代の琴のミニチュア版をつくります。	6月6日	20名		50円
7月19日(土)	カラムシから布をつくろうその1	カラムシを刈り取り、繊維を糸で作り出します。	7月4日	15名	小学4年生 以下は 保護者の付き 添いが必要	無料
8月23日(土)	カラムシから布をつくろうその2	カラムシの繊維を紡いで糸をつくります。	—	—		—
9月20日(土)	弥生土器づくり1	小型の弥生土器をつくります。(形づくり)	9月5日	20名	小学4年生 以下は 保護者の付き 添いが必要	200円
21日(日)	弥生土器づくり2	小型の弥生土器をつくります。(文様づけ)	—	—		—
10月18日(土)	石庖丁づくり	弥生時代の稲刈り具石庖丁をつくります。	10月3日	20名	小学4年生 以下は 保護者の付き 添いが必要	50円
10月25日(土)	弥生土器の野焼き	9月につくった土器の野焼きをします。	—	—		—
11月15日(土)	カラムシから布をつくろうその3	8月に紡いだ糸でアンギン編みの布をつくります。	—	—	小学4年生 以下は 保護者の付き 添いが必要	—
12月20日(土)	凧づくり	竹ひごや和紙で凧をつくります。	12月5日	20名		200円
1月17日(土)	土偶・土面づくり	粘土で「人形」や「お面」をつくります。	12月26日	20名	小学4年生 以下は 保護者の付き 添いが必要	100円
2月21日(土)	土偶・土面の野焼き	1月に作った土偶、土面の野焼きをします。	—	—		—
3月20日(土)	石器づくり	原石を割り石器をつくります。	3月5日	20名	小学4年生 以下は 保護者の付き 添いが必要	200円

2 まほろんイベント(年4回第1日曜日を中心に実施)

期 日	イ ベ ント 名	イ ベ ント 内 容	募集締切	募集人数	対 象	材料費
5月 4日(日)	昔話を聞こう	竪穴住居の中で昔話を聞きます。	なし	—	どなたでも	無料
9月 7日(日)	体験発掘ツアー	調査中の現場で発掘を体験します(場所未定)。	8月22日	25名	小学生以上	無料
11月 1日(日)	鉄づくり	古代の製鉄炉を復元して、鉄をつくります	10月17日	200名	どなたでも	無料
2日(日)	鉄づくり	古代の製鉄炉を復元して、鉄をつくります	—	—	どなたでも	—
12月 7日(日)	弥生グルメ祭	古代の畑で栽培した餅米を堅杵でつきます。	11月28日	20名	どなたでも	500円

3 まほろん探検隊(第2土曜日・日曜日に実施)

期 日	体 験 メ ニ ュ ー	体 験 内 容	募集内容
5月17日(土)	結団式、田植え	古代米の苗で田植えをします。	1 小学5年生～中学3年生 2 定員15名 3 継続して半年間活動できること 4 申し込みは 4/25 まで 5 材料費1,000円
6月14日(土)・15日(日)	弥生土器づくり	弥生土器づくりに挑戦します。	
7月12日(土)	田んぼの草取り	古代米の田んぼで草取りをします。	
8月 9日(土)	石器づくり1	弥生時代の稲刈り具石庖丁をつくります。	
9月13日(土)	石器づくり2	弥生時代の稲刈り具石庖丁をつくります。	
10月11日(土)	稲刈り	石庖丁で弥生時代の稲刈りを体験します。	
10月25日(土)	弥生土器の野焼き	6月に作った弥生土器の野焼きをします。	
11月22日(土)	お泊り会	竪穴住居で料理をつくり、体験ひろばでキャ	
23日(日)	解団式	ンプをします。(宿泊は希望者のみ)	

4 まほろん文化財講座(年4回第4日曜日を中心に実施)

期 日	講 座 名	講 師	募集締切	募集人数	対 象	入場料
1月25日(日)	原始・古代の「衣」	当館学芸員	先着順	60名	どなたでも	無料
2月22日(日)	原始・古代の「食」	当館学芸員	先着順	60名	どなたでも	無料
3月28日(日)	原始・古代の「住」	当館学芸員	先着順	60名	どなたでも	無料

5 館長講演会(年6回第4土曜日を中心に実施)

期 日	講 演 題	募集締切	募集人数	対 象	入場料
4月26日(土)	シリーズ『日本文化の多様性』第1回「日本文化の多様性」	先着順	60名	どなたでも	無料
5月17日(土)	シリーズ『日本文化の多様性』第2回「北の文化－北海道を中心にして」	先着順	60名	どなたでも	無料
6月28日(土)	シリーズ『日本文化の多様性』第3回「南の文化－南島を中心にして」	先着順	60名	どなたでも	無料
10月25日(土)	シリーズ『世界の考古学調査』第1回「各地の考古学調査－ヨーロッパ」	先着順	60名	どなたでも	無料
11月29日(土)	シリーズ『世界の考古学調査』第2回「各地の考古学調査－西アジア」	先着順	60名	どなたでも	無料
12月20日(土)	シリーズ『世界の考古学調査』第3回「各地の考古学調査－シベリア」	先着順	60名	どなたでも	無料

各行事への申し込みは、住所・氏名・年齢・電話番号・イベント名を往復はがきにご記入の上、郵送くださるか、または、来館時に所定の申込書にご記入ください。(ご家族での申し込みは1枚のはがきに連記でもかまいません。)

ご利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館)、国民の祝日の翌日(土

入館料 曜日・日曜日にあたる場合は開館) 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。)
その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。(HPで問い合わせ開始)